



都太夫一申直傳

門 7
號 4375
卷 2

都羽二座拍子扇

板元 文華堂

二編標目

稻津久志

子きく

道一の狂

三原豆

用明天皇

杉うき子

賤はら華

木谷好衣

信田妻

子乃子

島田藏書

松尾

尾

まはつはつにんしんしん 歳徳ハ小姓ニ
やまなもふかへ千代の古
はつあまのまのあつらひのつみ
君よじうしうの雪お拂



都太夫一中

都秀太夫千中

都京太夫有中

都富士太夫可中	都節太夫吟中	都華太夫以中	都太備奈夫童中	都國太夫半中	都三壽太夫追中	都梅太夫鶯中	都北太夫五中	都岸太夫鯉中	都東太夫呂中	都以名太夫三瓶
都	都	都	都	都	都	都	都	連長	都	都
栄二	雄二	路助	権平	以十	都	都	都	都	六二	松齋

引^ひもくは侍神^{しやくじん}の西海^{せいかい}の雲^{うみ}の浪^{なみ}

岩^いららと婦^め子の^こり^り掉^たし^し

いもの少^{すく}妙^{めう}子^しを^を流^{なが}る^る

侍^{しやく}社^{しゃ}の^のあはれも^も八^は流^{りゅう}座^ざを^をな^なる^る

所^{ところ}あ^あく^くも^もち^ち夜^よよ^よ千^ち年^{ねん}に^に松^{しょう}桂^{けい}を^を

葉^はか^か〜お^おの^のあ^あら^らの^のあ^あら^ら

あ^あの^の神^{かみ}を^をた^たら^らせ^せた^たま^まひ^ひり^り

侍^{しやく}崎^{さき}を^をせ^せよ^よば^ばえ^えの^のあ^あら^ら

男^{おとこ}杉^{すぎ}を^を持^もち^ちせ^せる^る情^{なさけ}を^を

い^いの^のあ^あの^の我^{われ}神^{かみ}の^の恵^{めぐみ}は^はめ^めを^を松^{しょう}

幼子の杉の葉をよむしちりふ

枝のうすうすの日たぬの杉は

あゝ柱やよ君が伎のはあゝ

いせ丸岡の小松系自あ

海は浅瀬浪しやあれ杉

宿のまきく浪蕨は浦杉のき

さしと霜のうらむ老杉を

枝のうらむあはれ君の幹は

くさぬ人吹まじりたむら杉の

まきよあゝあゝ娘杉と霞の衣

あふもくさくさ たて ちり せが ちり あ

杉の た も あ ぐ あ 倉 あ ぐ あ 抱 あ

あ あ ぐ あ ぐ あ 抱 あ ぐ あ 抱 あ

あ あ ぐ あ ぐ あ 抱 あ ぐ あ 抱 あ

い あ ぐ あ ぐ あ 抱 あ ぐ あ 抱 あ

あ あ ぐ あ ぐ あ 抱 あ ぐ あ 抱 あ

あ あ ぐ あ ぐ あ 抱 あ ぐ あ 抱 あ

あ あ ぐ あ ぐ あ 抱 あ ぐ あ 抱 あ

あ あ ぐ あ ぐ あ 抱 あ ぐ あ 抱 あ

あ あ ぐ あ ぐ あ 抱 あ ぐ あ 抱 あ

まのこゝろのさくらさくらなご

かぎのたまごのたねはあまのついで

うきうきとてけうくく神垣カミキの

たけきさきののりよなごまのついで

いとまごのちのちのちのちのちのち

お返笠物狂

まのこゝろのさくらさくらなご

かぎのたまごのたねはあまのついで

うきうきとてけうくく神垣カミキの

たけきさきののりよなごまのついで

いづのるよはるはるは出ツデ

三界えんをめぐ家いえやう

らぐ笠雨しやうのやうまを

心こころをめぐ佐枕さまくらをめぐあはれ

川かわをめぐ赤あかのあさ筆ふでをめぐ

花はなのはなをめぐおひおきをめぐ

大おほのおほもも能よく舟ふねのはた行ゆきや

姉あねさんさん先まへとと物もの進すす柄へ格かくの

美うつく麗しなりりとと柳やなぎががああののく

ややああのの物もの友ともののああよよゆゆ

うね世うらさく 尾の寄

尾の寄と八海を

ふまの八志母がなる節八夜

伊香よ唄八念佛八唄比立

むさひ通八清十郎志あるこのめ

美うおく ぬえ管八小美うちん

あくぬえとくやん美とくる尾の

持狂八ぬえくあがしは

符よあひ鳥よ八あけ

志も教人のよあけ

糸夷（まき）とくまのつとひなきひと
侍之（まじ）聞（きこ）孔子（こうし）の鯉魚（りぎょ）のつら
おのれ（おのれ）を（を）豹（ひょう）と（と）禁（かみ）白居（はくきょ）易（えき）の
子（こ）を先（ま）立（た）て（て）枕（まくら）と（と）妹（い）弟（てい）を（を）う（う）む
を（を）先（ま）立（た）て（て）枕（まくら）と（と）妹（い）弟（てい）を（を）う（う）む

親（おや）より（より）母（はは）より（より）父（ちち）より（より）兄（あに）より（より）弟（てい）より（より）
弟（てい）より（より）兄（あに）より（より）父（ちち）より（より）母（はは）より（より）親（おや）より（より）
聲（こゑ）を（を）お（お）の（の）と（と）教（おし）も（も）ら（ら）ズ
を（を）先（ま）立（た）て（て）枕（まくら）と（と）妹（い）弟（てい）を（を）う（う）む

ふりつとあくやちせむせむせ

あくあしある侍あし侍あしのて

かへりてかへりて連て行たを

イヤお傍とてあつたしはな

丸太舟しほ浮しほ世を流ししほ節を

あつたあつたあつた

小舟こぶねはくあつたあつた

あつたの清十郎は鶴つるをおき志し

親おや者をさつたあつたあつた

亦ももちあつたあつた

柳なぎの葉はひのはきりるひのゆるえる

三日つひりい三さん牧まき七日ななはな七しち枚まい

キセきるせ誓ちか言ご紙しの牛ごう王おう所しよららををく

灰はいよよ鏡かみ窓まどたたままひひよよ春はるくく

ああももととししききれれああららじじ

ひひががもも何なにれれももああはは神かみくくりり

能のうくくの神かみわわああるるはは

ああらら箱はこ根ね玉たまののまま

尖さき舟ふねやや痛いたけけの神かみもも神かみもも

免めんの神かみああらら君きみ人ひとののまま

もろくもくわんめいれぬハ

皆^{みふ}傳^{いつはり}の御神とみまつるも

祈^{いのり}ても神の力^{ちから}もあふんぬと

笑^{わら}もかきもあはれくちやう

くさひをけく我^{われ}のましある

用明天皇道行

志^{こころ}敷^{つけ}るも何^{なに}の^甲あまに

陸^{りく}地^ちを^をぬ^ぬあ^あせ^せた^たま^まの^のい^いは

志^{こころ}敷^{つけ}るも^もあ^あま^まの^のい^いは

み^みり^りけ^け味^{あじ}衣^いも^も今^{いま}ハ^ハあ^あわ

麻あしのころもよめあられ
をを玉たま輝かのよすはるく
清き手てよふしませたまひつ
竹たけの蔭かげ生なれま葉はあぐ
恋こいよハねまおる玉たまの袖そで

木きは日ひもい海うみとあ浪なみの
夕ゆふのほもにむるたふれ
浦うらよをすのまなまじらる
おのゆつかり船ふねのり
便べん船ふねちくめもあよ

口平高

舟のく 船人 纜とく

舟 所はあり 漕いす

の時 天皇 自らいす 船長

舟のく 今何めく

筑家 入らる 教者 なる

刃えのり 名所も

く 舟物語 ぬき

あき 船人 けなまり

さ 八都の人 ちりく

実 舟も 同せ なる物

いざくわへ中庵ちゅうあん

おぼくあを凍らせよ

宮みやをいざくわ濱なみびの

弓ゆみのあゝ住すまひ七口の

浦うら守まもれ稲いなよ年としを短ひく

のきくちうの榊せうせき葉はの

あきををみあげの本もと林はやしる

兵庫ひょうごの浦うらは須磨すまの浦うら

竹たけ占うら危あやも考かんがへた久ひさえん

くき園ゆゑん路ぢハありとくも

あふー
の石のまをえつせき

あまみなるむける高砂の

松ハあじしのきろはあり

河ハよるえハ淡路島

霧ハおもしろき鳥かもめ

儀多のあまある女侍ハ

ありろハねをせむ

天皇けのもめむらうの

十くろもたれくひぐやまた

らたのこふんえりぬ小舟

吉廊きりやうののこもくき聞おもの

あおれ小ぶりの釣舟つりふねの

波なみよゆれしうたごふらもよ

敷うきのうららき出釣る所ところの

いぢやうしやくおのせ仰らぬを

まる船人ふねうしのいりて様人さま術じゆつ後ご

ちよむのふりくもすり雲くもかき

名なの勢せいハ四國しこく讚さぬ岐路きぢわ

雲くも井いよまふ阿波山あまやまを

かけ漕舟こぐふねとありけ儀ぎを

ひく 佃あひの浦 伊豫いよの海うみ
土佐とさの 大崎おおさき名越なご山やま

うねは 先さきあぐゆぐや

時ときよ 天皇てんかうよ 由よし豊後ぶんごの

玉たまよ 今いま 許ゆるたをん

船人ふねうぢら けなま けなま けなま

七八しちはち 柁里せうりも 津つ座ざゆん

去いりちあき 今いまも 追お風かぜふ

ふよぬ だ 一時ひとときあ

豊後ぶんごの 津つよ けなま

上流

カスナとよばのきりのきりもみん
るきりくきり順きり風きり類きりよきり空きりのきりぬきりた
船人きり大年きりよきりはきりをきりけり
きりきりときり持きり追きり風きりのきり来きり々きりゆきり
津きりもきりぬきりときりじきりまきりーきりおきりせきりやきり

いふきり走きりはきりよきりしきり風きりハきりきり
帆きりをきりじきりまきりあきりびきりくきりもきりらきりあきりしきりたきり
ふきりねきりいきりさきりりきりたきりれきりぬきりやきりきりきりもきり
たきりをきりときりやきり走きりよきり方きりつきりしきりやきり
ゆきりけきりたきりたきりたきりなきりくきり筑きり家きり路きりわきり

豊後^{あき}後の^の園^くに入^いりたまふ
十^{じゅう}善^{ぜん}帝^{てい}位^ゐの^の志^し暮^く春^{はる}は園^{やま}
何^{なに}とくくく人^{ひと}日^ひは本^{もと}の
弥^やよ志^し取^との^の鏡^{かがみ}なるは
感^{かん}ぜぬ者^{もの}とんたうりら
感^{かん}ぜぬ者^{もの}とんたうりら

尾上^{おののへ}雲^{くも}賤^{せん}機^{はた}帯^{おび}

お^おひ^ひま^まも^もは^はお^おの^の花^{はな}は^は空^{そら}
花^{はな}葉^はの^の雨^{あめ}と^と中^{なか}が^がよ^よひ^ひを^を
よ^よひ^ひを^を中^{なか}が^がよ^よひ^ひを^を
か^から^らき^き入^いぬ^ぬ消^{しょう}ぬ^ぬお^おひ^ひを^を

カ料ちりょう まぬまぬくく小糖しょうとうのの油あぶらををららふ

樹きのの下した凡ふははるるくく

赤あかららののりりままららせせるる

名なはは大おお磯いそののややももももくく

くくららめめののここままおお名なををらら料りょう

ききららののりりままららせせるる腰こし帯おびのの

物ものののりりままららせせるる山やま路ぢののりりままららせせるる

ままののりりままららせせるるののりりままららせせるる

ああののりりままららせせるるののりりままららせせるる

夏なつもも東あづまののりりままららせせるるののりりままららせせるる

みづる各もあなむらん
たのみの小舞ぐ風いひ
まもあまふなむあ
花たきいぬもむらさき
じと商人あしははるれ

申くふいづれとまらぬ
神かみよひりれ及らる
いささむと休たけ年たあは
まぐきうかひとあは
あのみほるれ雨あめ志こころ月つき較くら

シ好一サオシハオサハオサハ
牛よふくすた丸あおる
空なづめくもあさけなめ
アシ愛る申く三日月の
あはくあはかハハハハ

揮なまきのひもかおもる
庵とやうなうはあはあ
子と子よあめくひすの
四の中りはねぎる
ふれらもあまのれあを

むづねうまよあづあづの

雲いもまのくけたきううたぬ

三太郎三ハむせうりく

杉さんもそんハあひなくは

柏かし子こよかろくたかぬの

糸いとちぢひよととぬきぬきは

むむままちちああららん

狂きやう女によハききららぬぬかかくく

ハアハア糸いとちぢひよよ曲まがハハななむむ

ののよよくくみみぬぬ斗たいい

鐘ネのシせくシのシめシるシ
のシ浪なみのシれシるシ
葉はのシ蝶ちょうのシれシるシ
之このシ模も松しょうをシ悠ゆうのシく
もシこシのシああまませせるる

子こをシああまませせるる
ささららせせるる里さとととちちれれ
るるのシ何なに物ものれれ土ど手て付つひひ
ままははららららななまま狂きやう狂きやうのシ
ななくくのシつつららふふのシ正せい躰たいもも

あまのこゝろのほのぼのの
さきもあまの千鳥や木を
見しもむしう川舟の
夜毎のまらるかすの
かたがくみのみおせり

あまのこゝろのほのぼのの
さきもあまの千鳥や木を
見しもむしう川舟の
夜毎のまらるかすの
かたがくみのみおせり

十^ちくろを^をね^ねれ^れ糖^{ちい}の^のくら
か^かみ^みの^の雲^{くも}れ^れ象^{ちい}の^のハ^ハス^スマ
伊^いの^の海^{うみ}ハ^ハる^ると^とあり^りか^かた^た敷^敷
十^じく^くの^のも^もち^ちの^のあ^あけ^けー^ーヤ^ヤサ^サシ
権^{ごん}量^{りょう}を^を入^いれ^れた^たは^はあ^あの^のり^りあ^あへ^へ

十^じく^くの^のも^もち^ちの^のあ^あけ^けー^ーヤ^ヤサ^サシ
三^{さん}太^た馬^ばの^の糸^{いと}の^のあ^あき^き
何^{なに}の^のあ^あき^きの^のあ^あき^きの^のあ^あき^き
持^もち^ちの^のあ^あき^きの^のあ^あき^きの^のあ^あき^き
子^この^のあ^あき^きの^のあ^あき^きの^のあ^あき^き

るのづゝるを留まじし花のこ

^{正解} ^{たれ} ^{たれ} 正解 花をいさむるを

みづのすゝる花を逆さく

あまのひがけをかくる磐石

かざりておすゝ櫛もさび

^あ^甲^乙 歩のり たるはる水のみを

ふれあふ花おもひの

花のうかすゝ風を捲く

音頭くさくさの

ふかぬあゝくさくさぬ

教まがをせ入と鼓つみをとり
一代いちだい教主きうしゆのの釋しやく迦年かねん尼に
如來にょらいのの說せつ法ほふ抄しやう人にんぞらん
華嚴けげん阿含あがん法ほふ竹ちやく寺じ般はん名な着ちやく
法華ほふけ涅槃ねはん法ほふ相さう律りつ氣きのの

きやがよむ傾城けいじやうらるるむ
あのらるむむらおむらるるむ
のぶら子こを去さるるむらるるむ
うきうきの世よありさむ、猪しゆ分ぶんよ
順じゆん風ふうやあをしぬや花はなちらく

自たまのおほりのたけなのくま

水みづよまのなまをなま

狂くる女なをないなまなじなるな狂くる人ひと

祈いの待まちのなのな南なん子しのな

まのな念ねん佛ぶつ称しょう名めいのな

三さん世せ諸しよ佛ぶつのな大だい陀た羅ら尼に

十じゆ方ほうサさ薩さつ埵とのな脱だつ門もんのな

七しちのな祭まつりのな本ほんのなをないな

まのなをないなまな七しちのな少せうのなをな

みみのなをないなまな川がわのなをな

武蔵の園ムサシの 下シノ 儀ノ 也ナリ

しづかしのけいのりから
たぬく来ぬる様を
あつてけいれをちくちく

信田書

ハ十氏人科敷なるにえよ
は血ハ浅あひなりけりたつめを
カカままいいししみみああららみみるる井井
おのきざらさよくのしと衣なけの

お花受も^ねはら^たく^さく^しておの^のの

侍^{さむらひ}もあ^らわ^らせ^しておの^のの

う^らた^まま^した^まの^の姉^{あね}と^は稚^{わか}子の^こ

母^{はは}を^をま^まし^ては^らせ^してあ^まげ^らん

い^いち^ちや^やと^とあ^あま^まの^のあ^あら^らう^うて^て袖^{そで}の^のあ^あら^らわ^わる^る

あ^あか^かが^があ^あら^らく^く帯^{おビ}を^をあ^あら^らわ^わる^るも

右^{みぎ}手^ても^も里^{さと}と^とあ^あら^らわ^わる^るの^の細^こ道^{みち}

い^いけ^け行^ゆを^をあ^あら^らわ^わる^るも^も秋^{あき}の^の宮^{みや}中^{なか}を^を

千^ち草^{くさ}は^はあ^あら^らわ^わる^る鹿^かの^の舞^ま

あ^あら^らわ^わる^るあ^あら^らわ^わる^るあ^あら^らわ^わる^る

あはれに我まはやくや丸の

おつれをぬのりり引れり子の

きたるく栗の小をたるとあま

栗山子た弓はてのねもり

あまらるるをまて有まんと狗車

足物多人行先ちりてくつ

あまらるるをまてあまらるる

家小将人たのりも無並極民

あまらるるをまてあまらるる

あまらるるをまてあまらるる

腫^や干^まの生^な根^ねをたぬら^らう

切^きり^りが抜^ぬれぬ煩^{わづ}悩^なの

き^うの^けな^たを^ら忽^と念^{ねん}を^らん^んん^ん

ぬ^ぬく^くぬ^ぬく^くぬ^ぬく^く

ぬ^ぬく^くぬ^ぬく^くぬ^ぬく^く

ぬ^ぬく^くぬ^ぬく^くぬ^ぬく^く

ぬ^ぬく^くぬ^ぬく^くぬ^ぬく^く

ぬ^ぬく^くぬ^ぬく^くぬ^ぬく^く

ぬ^ぬく^くぬ^ぬく^くぬ^ぬく^く

ぬ^ぬく^くぬ^ぬく^くぬ^ぬく^く

の
対 寺のうねのきんじり集た

自れひのきんじり集た

志のゆよすらーちのり

志のきかきりもさけ入る

志のいふくもさけいおえんり集た

丹波 夢路駒
与作

与作 丹波 馬追 はんど

今ハ村末のたねの駒志うが

志かんとさせ与作

与作くさよたれし

稲いね負あわせ馬まもも方かたををいいく
野の足あしはは川がわ蒼あや斬のき鳩たのの籾もみ
馬まののおおももちちよよああひひののここままに
草くさももつつののりりももここのの曉あけらら
ささののいいののししのの對たいのの書しよははしし
人ひとををののせせここののせせここををししくく
かかきき架かはは様さまのの坂さかのの下したががふふ
夜よ深あふくくいいくく葉はふふののけけのの
ととままののかかままいいままををししくく四よ日にち市し
見みししててももああままののああままののななららななららせせ日にち

中^{ちゆう}有^うの揺^ゆれ馬^ばにのり

あゆめ^{あゆめ}の志^しぬと口^{くち}を

いけと^い去^され^れと行^ゆめ^める

音^{おと}類^{るい}の生^まあ^あれ^れを

窓^{まど}初^{はつ}を^をお^おむ^む綱^{つな}を^をみ

三月^{しんげつ}一^{いち}十^{じゅう}二^に十^{じゅう}二^にの^の年^{ねん}

に^にお^おる^る九^く年^{ねん}

と^とる^る人^{にん}を^を

ち^ちよ^よと^と宿^{しゆく}を^をみ

ね^ねと^と女^{によ}を^をみ

友とものありみもとよし時の花はな

毎ま常とこれ凡まづ年としちり果はて

馬うまちり太おほいよさふ人も

なひくくはるあやきやと

靴くちよしれゆたらしと

袖そでよハ妙たきこまはくハ

木この實みをぬきぬきぬき

ちたりのみハおとし

ぬけ参ま宮みやれちづれ

恋こひの事ことなるの馬うま追おひ

足あしもかろぐ公こうもじらよ

さよふれささおのめり

あえれぬ中なかつを秋あきの霜しも

十じゅうよじ切きりなると糸いともなりのく

窪田くぼたは浮うき名なるうのむじあめ

河漕カウのあめし何なにも

あゝみやちもゆる塔たかの

まありの塚つちをおひきす

子こよめはづるじきかへく

又またりけり死しある鹿かハ

ふらん浦うらをおひす
かかつめとらとらのおよめ
たかたかしとらとらのいし
人の末まちをまらふ
なほなほきししが今いまま

お能あたつつ嶽たけあはあわ
かの神かみ宮みやはは心こころたたは
いいままちちややままららたたももせせ
ささららははすすぎぎみみ道みち者ものも
ききららひひふふくくああししんんはは

よりのや田む向かうも何なにきけたるや
るくきこも未み来らも現げん世せぐ

あると男おとこらおめおめめめああくくめめりりと

ちちああひひげげれれおおハハツツの
太たい鼓こののををとと高たか田た々た寺てら

とらやの茶ちやハタリはたりししも

十じゅう万まん億いっぴく土ど馬ま次つぎ州しゅうの

西せいの百ひゃく味みのの様よう花はな屋やの

親おや者しやををああいいひひををととららく

蓮れんののううめめははああののんんせせ

夫の婦の木のあひあひ宿も
南無阿彌陀佛と傳と
光のあまのふけあめのみ
るは誓願の詞はるん
千貫おのびる者より敷

梅川道行三度笠

羽傘帳紅圍は枕をう厚し
床のらもちあはるふまの
夜まのくよよ津も人のぬ
若もか去もそも我のあは

^{あき}秋

きりきりあまのなつらび

あきけのなつらび

人をもたぬの淵きんぐ

夜まの中戸もさかき

人月丸のさかき

きのあまのひつぎ

霧のまけあはつたを

くさくさ人志よと櫛をきり

あきけのなつらび

あきけのなつらび

あひくすはあひら
駕籠の息杖つえのきくま
はぐいのもろのゆきざら
あけぬるまよきぞとく

ヨイサヨ

かたはたしをあひら
らちかたかたのら
せよのきつあひら夜ありの
仰たうせの念ふち念ふれも
宗むねのりつたし

何多れ霜とをきかへ
夜すのあじしよおたれくハ
たつあるの月れかむら松
まぢり一の夜がおもれ
いとちもてはぬものおめ

何らどくとおふなめれ
一蓮託生となくはるま
扇心よむのくきせりらま煙
糸のみの賤を火をもち
時守のる教目たる

かたわくくさせく傳しやうをさる
あんれは由のいぢあ
わうぬん六折あじし
ちをもあぬかちほし
おむいふたりばうぢや

申まをぬ着またぬ綿わた帽子ぼうし
一いちがかたきうとわすんの
ははををとと瓦わぬせく
むむをを帽子ぼうしやむむきよの
いいろろぐぐ舞まいううははむむししの

早 づい 去ん どの 女夫 ^{めをと} あひ

あ の おと 神 ^{かみ} びか の 申 ^{まを}

庚 申 ^{こうしん} 堂 ^{どう} よと 姉 ^{あね} おと

あ と あり 返 ^{かへ} し た 妻 ^{つま} あり あり の

ま と あり か たり 泣 ^{なみ} は る ぶ

袖 ^{そで} の 氷 ^{こおり} と さ ら せ ら 何 ^{なに} げ

な へ 去 ^い ぬ 人 ^{ひと} 多 ^{おほ} け け せ を

と も と 袖 ^{そで} を 肩 ^{かた} の 里 ^{さと} の

重 ^{おも} 衣 ^ひ 及 畦 ^{あぜ} 乃 ^な を ま じ ら せ ら せ ら

有 ^あ 井 ^い 寺 ^{てら} あり あり あり あり

とてし田舎も恋の世やあらぬ

睦言秘しおしくくし見えぬ

いけのるしおし初雪の初と

初雪はあつよおくらぬ

大門口のま雪も今降雪

かたしぬと雪果る飛たり

まぢるよははある小筆原

霜よあし村のまらよ原

たうくさらしきんよたう

まを追ふあつぬるま

肩おかひかさぢり 勢しほからくつまこい乞

鳥とりの羽たもと多たよおむる鹿かとある

ひの打つる罪つみのむさひぢや

くどきなけちく行ゆくあご

波なみの弟あにみ写うつ田た林はやしむら鳥かきま

せめくし平ひらおおひらなく

とこのむしおころるのたの高たかる山やま

あめのかはくか神かみあぶ

直ちかれしののひひ路ちつつあありりく

身みををままののぬぬたた恋こいれれおおももら

見し^みの^のさ^のき^の浮世^{うきよ}は^はも
竹^{たけ}の^のら^のも^の峠^{とうげ}袖^{そで}は^はも
い^いは^は屋^やと^とく^く石^{いし}乃^の也^{なり}
野^のた^た之^の山^のた^た之^の里^のた^た之^の
申^{まを}く^くハ^ハ志^{こころ}踏^ふれ^れた^た物^{もの}は^はも

本云 猿

榮思述

松^{まつ}根^ねよ^よゆ^ゆた^た縁^{みぎ}物^{もの}の^の
糸^{いと}の^の花^{はな}は^はひ^ひら^らけ^けた^た御^み代^よの^の春^{はる}
有^ある^る也^{なり}氏^{うぢ}も^も由^{よし}の^の永^{なが}き^き日^ひよ^よ
枝^えの^のた^たん^んも^もた^たり^り神^{かみ}も^も

まの輝まのとどろく相あひま生まの

杉すぎハあふたむ井いはあふ

あふあふのいりよあふあふ

五ご葉はあふあふあふあふ

五ご葉はあふあふあふあふ

松まつのこ

はらあふあふあふあふ

中ちゆうのあふあふあふあふ

あふあふあふあふあふ

あふあふあふあふあふ

あふあふあふあふあふ

千代の古^{ふる}々^々い^いく^く代^よ々^々

庭^{にわ}の林^{はやし}方^{かた}々^々神^{かみ}楽^{らく}貝^{かい}

み^ミも^もま^まり^りの^のい^いろ^ろ々^々々^々

庭^{にわ}籾^{いね}の^の香^{かほ}も^もほ^ほふ^ふち^ちう^うづ^づき^きも

ち^ち也^やま^まも^もれ^れは^はや^や真^まの^の砂^{すな}の

松^{まつ}々^々太^{たい}ま^まの^の八^{はち}々^々々^々

ま^ま松^{まつ}々^々か^かま^まみ^みれ^れ々^々々^々松^{まつ}

か^かよ^よ々^々々^々々^々々^々々^々の^のま^ま々^々

何^{なに}々^々々^々々^々の^のま^ま々^々々^々々^々

松^{まつ}々^々々^々々^々々^々々^々々^々々^々

よふちあづきの松うへききの

おとよそふれ目の少杉曳シカ合

「みやびかき」て松うへき

裏シラむしきもかきさふれ

ましもサウシ津ツるれちんぎ

そは松丸の考カウハげんぎ

「カ園エンが申ウたれむの酒サウ」

たのしくれしおまの

まのさのまのまのまの

とけらたははみと

みどる中や紫ちんはつふまぬ
千ち八ちふちのよやちひり
手ち歳とせのみさほをあら
かろくぬいそれはつあ
あふいんく紫とをちあ
る

松羽衣

疎柳補文

けキふも岡を敷朝のあふ
写キのの士をじのひよ三保の寄
みツたツらツうものあのく海の心のあのく
みツさツるツをのむのさのらの波のさのく

吹^{ふく}春^{はる}風^{かぜ}の聲^{こゑ}よつら^く虚^こ空^{くう}を

し^しく^くも^も花^{はな}も^も妙^たなる^{なる}か^かた^たを^を

花^{はな}妙^たなる^{なる}及^{およ}た^た身^みの^の詠^{えい}の^のも

す^す海^{うみ}を^をら^らなる^{なる}糸^{いと}一^{ひと}つ^つを^をぬ

凡^{ふつ}ち^ちも^も花^{はな}の^の浮^う浪^{なみ}を^をか^かく

釣^{つり}舟^{ふね}を^を人^{ひと}が^がく^くら^らん

是^{こゝ}は^はけ^けに^にあ^あり^りよ^よも^もむ^む伯^{はく}我^がと^とす^す

漁^{いし}夫^{おとこ}も^も山^{やま}見^み海^{うみ}を^をあ^あし

杉^{すぎ}よ^より^りく^くた^た衣^いか^かす^すを^を

花^{はな}も^もか^かつ^つ人^{ひと}も^もも^もな^なせ^せ家^{いへ}の^の

あつらひしものもあつたがやとあるあ

あつらひし衣こゝろえの人の相あひ

輒つとむ人よ何なにもあつたあつた

の だましくさくさくさくさく

いし先さきもあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

羽ねける飛行たれも絶果く
あざらんとまぬを翅あく地子住
時ハ下界之せんうゝ泪露の玉
の花もうちも志存き
五妻のまごゝる眼のまのこ

物もさしけらんを霞多の
雲路のなも輝おんく
千鳥のあゝの津津波
はつらつあゝかゝあゝあゝ
西も東も春次丸の空け便し

ありしものもあはれなるもの

なごりあるものもあはれなるもの

あはれなるものもあはれなるもの

衣をたかひしものもあはれなるもの

あはれなるものもあはれなるもの

さしども衣をたかひしものもあはれなるもの

あはれなるものもあはれなるもの

あはれなるものもあはれなるもの

あはれなるものもあはれなるもの

あはれなるものもあはれなるもの

お衣うらく美なりす

かみくろよ書書あは駿河舞ちづま
まゐ うら まひ

霞裳羽衣のむす姉つぐみ
あ お

るワキ ワキ さか の か は

そらもめらら出雲のあそ

凡の通路かきくそめくかき ち

あは み ま ら か ら あ は

去あらしは樂もさりぐたのしみ

浪のばらちの弄あそび

去らるるもさしは輝あかり

志づきとく久よ乙女はさる

あもむとくあもむ其名はく

常盤のふけはく入す

羽るはもれはあはきす

君の御代ははるはく

甲子 踏御走

秋津淵や大國主は神は

人もやうは孝も甲子を待

夜車の友歌の延也系什を

何とせむはるのたむべ

るの^{きふ}おの^{きふ}も^{きふ}おの^{きふ}お^{きふ}さ^{きふ}さ^{きふ}さ^{きふ}さ^{きふ}め^{きふ}合

おは^{ニテ}神^{ニテ}の^{ニテ}海^{ニテ}婆^{ニテ}一^{ニテ}は^{ニテ}い^{ニテ}り^{ニテ}る

色^{いろ}ま^まく^また^まお^まじ^まん^まく^まと^まや^ませ^まも

テ^キよ^キふ^キつ^キら^キま^キふ^キく^キら^キい^キら^キひ^キの^キか

ま^まじ^ま教^まあ^まら^まひ^まの^まま^まな^まら^まし^まめ

之^シを^シ一^シし^シら^シう^シづ^シま^シさ^シし^シめ^シら^シし^シめ

本^ホの^ホ輝^ホの^ホ中^ホも^ホむ^ホら^ホか^ホの^ホ一^ホに^ホ

教^シの^シ子^シ夜^シ使^シま^シせ^シぬ^シる^シの^シう^シ

かく^こし^こ蓑^こ笠^こ宝^こ珠^この^こ玉^こホ^こづ^こぬ

白^{しろ}銀^{しろ}珊^{しろ}瑚^{しろ}珠^{しろ}の^{しろ}枝^{しろ}も^{しろ}志^{しろ}づ^{しろ}く^{しろ}

末志まゝがりみま 行ゆ 流りゅう 代だい ありしあり 志し
 祈いのり をを かか くく ぬぬ ぬぬ のの 家いえ 上の 秋あき 心こころ のの
 うう のの 字じ 一いっ つつ のの もも 一いっ 俵たわら をを
 米こめ 義ぎ やや 写うつ せせ 自みづか 在ま 在ま 福ふく 上の 志し
 志し 何なに 人ひと 志し 志し 志し 志し 志し 志し 志し 志し 志し



近ちか 来き 予よ 一いっ 流りゅう 世せい よよ 正せい 流りゅう 志し 志し
 古こ 板ばん のの 正せい 本ほん 八は 皆みな 細こま 字じ 故こ 付つ 志し
 改か 々々 寺てら 所ところ 縁ゆかり あるある 文ぶん 花か 堂どう のの 主しゅ 任にん
 再また 板ばん をを 寫うつ せせ ぬぬ ぬぬ ぬぬ ぬぬ ぬぬ ぬぬ ぬぬ ぬぬ

文政三庚辰年孟春 都大夫一中



正本板元

江都瀬戸物町
 文花堂
 塩屋庄三郎

